

残暑厳しい日が続いております。夏の疲れも出るころです。お互い体調に気を付けましょう。

さてこの暑さの中私達家族はというと、はじめての家族旅行(帰省以外で)に行っていました。今回の旅は当初、島根と広島 2泊 3日の行程でしたが親戚の逝去が重なり葬儀出席のため急遽 1泊 2日の旅となりました。ですので結局、島根がメインとなり今回広島は好み焼きを食べて帰るのみでした。(しかし子供は喜んでおりました)広島はまたリベンジしたいと思っております。

家族旅行で島根と広島とはすこし地味なように思われそうですが、島根県には松江城、出雲大社、世界遺産になった石見銀山、日本海側にはきれいな海水浴場も点在しており行ってみますと一日では到底回りきれない程楽しめます。しかしそもそも今回の旅は「妙好人、浅原才市さんの故郷をたずねたい」という坊守の希望からはじまったこともあり、私も以前から同じことを思っておりましたので才市さんの生まれ故郷を調べてみますと島根県大田市

温泉津ゆのつとなっております。石見銀山とともに世界遺産にも指定されていることも知り、一気に旅行欲をかきたててくれました。その名のごとくここは江戸時代から湯治場としても有名で、現地に着いてみますと思ったとおり町全体が古く江戸時代から続いている建物もあるとのこと、私達が泊まったのは昭和の古民家を改築し建物一件(4DK程)そのまま使用できる宿で家族で大喜びしました。温泉は歩いて 5 分程の「薬師湯」という共同温泉、子どもたちにはかなり熱そうで湯あたり寸前の顔をしておりました。しかしまさに「身体に効くお湯!」といった感じでした。

さて、妙好人とはどういう人を言うかということ、在家の方でも僧侶でも、深く正しく日々お念仏を慶ばれる生活を過ごされ、人々にその生活ぶりを敬われた方々と言っていいかと思えます。その一人が浅原才市さんです。才市さんは下駄職人を営む生活の中たくさんの詩(口あい)を残し阿弥陀様のお慈悲を伝えて下さいました。才市さんに関しては、仏教学者として世界

的に有名な鈴木大拙氏がはじめて紹介して以来有名になりました。今回の旅では才市さんの家、毎日通われていたお寺(安楽寺)、才市さんの銅像を拝見しました。どの場所もとても趣きと温かみがあり有難い空間でした。

その才市さんの銅像(絵像)は、正座して穏やかに合掌されていますが何故か角が付いています。この角は才市さんのご意向で後にそうなったそうですが、この姿が浄土真宗の教えを胆摘にあらわしております。

まず、角は凡夫の心をあらわします。私の心は仏様とは逆行する鬼のような心が潜んでいるということでしょう。しかしその鬼のような心を持ち苦しんでいるものを不思議とお救い下さる仏様と出遭っている慶びが合掌の姿です。

妙好人の方々は、私たちにこの阿弥陀様と日々向き合って生活する大切さを教えて下さいました。

「あさましや さいち  
こころの火の中に 大悲の  
親は寝ずのぼん もえる機  
を ひきとりなさる おや  
のお慈悲で」 才市